

## 理論経済学特講II 2009 講義要綱

影山純二@1423

E-mail: kagejun@meikai.ac.jp

<http://homepage.mac.com/kagejun/academic/>

オフィスアワー: 木曜3限 (13:00~14:30), 金曜2限 (10:40~12:10)

### 講義概要

大学院においてマクロ経済学を学ぶ上で必要な基礎知識を習得することを目的とする。とくに他の経済学分野で応用がきくように、マクロ経済学の基本となる理論モデルの解説に重点を置き、随時その応用例を考える。なお、解説するモデルの例は下記の通りである。

- ◆ Life-Cycle Model & Overlapping Generation Model
- ◆ Solow Model
- ◆ Ramsey Model
- ◆ Dynamic Stochastic General Equilibrium Model

教科書：使用しない

### 参考書

- ◆ Blanchard & Fisher, "Lectures on Macroeconomics"
- ◆ Romer, "Advanced Macroeconomics"
- ◆ Azariadis, "Intertemporal Macroeconomics"
- ◆ Obstfeld & Rogoff, "Foundations of International Macroeconomics"
- ◆ Barro & Sala-i-Martin, "Economic Growth" (内生的経済成長論 1, 2)
- ◆ Aghion & Howitt, "Endogenous Growth Theory"
- ◆ de la Croix & Michel, "A Theory of Economic Growth"
- ◆ Adda & Cooper, "Dynamic Economics"
- ◆ Leonard and Van Long, "Optimal Control Theory and Static Optimization in Economics"
- ◆ Chiang, "Fundamental Methods of Mathematical Economics"
- ◆ Chiang, "Elements of Dynamic Optimization"

評価方法：絶対評価。全員がAを取ることが望ましい

中間・期末試験 (50%)、宿題 (25%)、講義に対する参加 (25%) によって評価。

### 特記事項

- ◆ 大学で学ぶべきマクロ経済学は講義しない：忘れてしまったので復習したいという学生は、私の経済学概論 (火曜4限 2537)、マクロ経済学 (金曜1限もしくは金曜3限 2537)、上級経済学 (木曜2限 2501) に参加することを認める。
- ◆ 微分レベルの数学は利用する：経済学を勉強する以上、数学を避けて通ることはできないわけだから、中途半端にやろうと思うと自分が苦しむだけである。「1から理解してやろう」と思って勉強する方が、精神健康上楽である。
- ◆ 経済学の共通語は英語である：真剣に経済学を学びたいのであれば、英語の論文が読める必要がある (標準的な経済学研究科修士課程の目標は最先端の研究成果が理解できるよう、論文が読めるようになることである)。内容的には大学生でも読め、かつ最新の研究成果が把握できる論文集として "Journal of Economic Perspectives" があるので、自分自身で挑戦してほしい。図書館にもある。